

(質問)日本は長年 ASEAN の対話パートナーであるが、東南アジアにおける中国の影響力の増大や、米国がアジア太平洋地域を再重視する中で、日本は ASEAN への関与を強めるのか。

(答)日・ASEAN関係及び我が国が深い友情を感じているASEAN諸国との二国間関係は、我が国外交の中で大変重要な位置を占めている。アジア太平洋地域情勢の変化を踏まえ、ASEANの重要性は近年益々増大している。本年1月、安倍総理、麻生副総理兼財務相、そして私が就任後初の外国訪問先としてASEAN諸国を選んだのは、我が国のASEAN重視の表れ。安倍総理がインドネシアで発表した「対ASEAN外交5原則」を踏まえ、政治・安全保障、経済、文化、人的交流などあらゆる面で日・ASEAN関係を強化していく所存。また、米国のアジア太平洋地域重視政策は、地域の平和と安定の観点からも重要。本年は日・ASEAN友好協力40周年であり、我が国は来る12月、日・ASEAN特別首脳会議を東京で開催する。日・ASEAN関係強化に向けた中長期的ビジョンを議論したいと考えており、友好協力40周年のキャッチフレーズ「つながる想い、つながる未来」を実践したい。

(質問)日本はブルネイにとって石油と天然ガスを中心とする最大輸出先であると共に(2012年総輸出額約70億ブルネイドル)、ブルネイに対する重要な投資国の一つである。ブルネイにはすでに三菱商事が進出しているが、更なる日本からの直接投資の可能性はあるのか。

(答)日本とブルネイの間では、LNG貿易を中心とした伝統的に良

好な経済関係に加え、2008年に署名した経済連携協定の下で、貿易・投資が順調に発展。また、2011年3月の東日本大震災に際しては、ブルネイからの追加のLNG供給に大いに助けられた。ブルネイからの長きにわたるLNGの安定供給に改めて感謝したい。私は本年1月にブルネイを訪問したが、その際、モハメッド・ボルキア外務貿易大臣との間で会談を行い、ブルネイにおける経済多角化・雇用創出に日系企業が意欲を有していることをお伝えし、経済的な互惠関係を構築するために協力することで一致。また、先月のボルキア国王訪日時にも、エネルギーを中心とした経済分野における両国の協力関係を強化させていくことを、安倍総理とボルキア国王の間で確認したところ。日本政府としても、日本からブルネイへの投資を積極的に後押ししたい。とりわけ、ブルネイが進める経済多角化・雇用創出、そして再生可能エネルギーや省エネルギーの分野で日本の技術を活かした協力ができないか、ブルネイ側とも協力しながら検討していきたい。

(質問) ARF や EAS を初めとする今次 ASEAN 関連外相会議において、日本が提起したい重要な議題は何か。

(答) ASEAN 関連外相会議は、日本と ASEAN との協力を強化するとともに、アジア太平洋地域各国の間の協力深化のための重要な機会。アジア太平洋地域各国との会議において、この地域における平和と繁栄の問題についての我が国の考え方を積極的に発信し、参加国との連携を確認したい。ASEAN 地域フォーラム (ARF) においては、南シナ海問題や北朝鮮問題など、地域の安全保障情勢について活発な議論が毎年行われている。私としても、地域にとって特に重要なこれらの問題について率直な議論を行いたい。東アジア首脳会議 (EAS) は、政治・安全保障分野について

議論する首脳主導のフォーラムとして発展させたい。今回のEAS参加国外相会議では、海洋分野の協力、低炭素成長、災害管理、青少年交流など、我が国が従来重視している協力の推進について議論したい。そしてその成果を、今後の首脳レベルでの議論に繋げていきたい。モハメッド・ボルキア外務貿易大臣を始め各国外相との間で忌憚のない意見交換を行うことを楽しみにしている。

(質問) 今次 ASEAN 関連外相会議において、議長国としてのブルネイの評価と信頼を高めるような大きな進展があると思われるか。

(答) ブルネイが ASEAN の議長国として卓越したリーダーシップを発揮していることを高く評価。ブルネイは ASEAN 地域における食料安全保障分野や海洋資源管理等を優先事項として掲げたイニシアティブを示しており、日本としても協力していきたい。ブルネイが、今般の外相会議と 10 月の ASEAN 関連首脳会議で、引き続き力強いリーダーシップを発揮することを確信している。我が国は、本年 12 月に日・ASEAN 特別首脳会議を東京でホストする予定であり、共同議長のブルネイとともに日・ASEAN のさらなる関係強化を推進していきたい。また、日・ASEAN 友好協力 40 周年である本年をブルネイとともに大いに盛り上げていきたい。